

福島・荒井猫田遺跡
あらいねこた

1 所在地 福島県郡山市川向、安積町日出山

2 調査期間 一 第一五次調査 二〇〇一年(平13)五月～二〇〇二年三月

二 第二六次調査 二〇〇二年四月～九月

三 第一七次調査 二〇〇三年五月～八月

3 発掘機関 郡山市教育委員会・(財)郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団

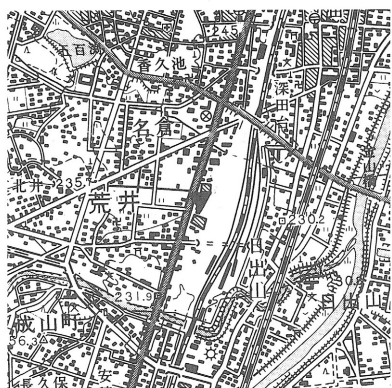
4 調査担当者 一 高橋博志、二・三 高田 勝

5 遺跡の種類 町跡及び館跡

6 遺跡の年代 一二世紀後半～一六世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

荒井猫田遺跡は、JR郡山駅から南南西約三・二kmの地点にあり、市内中央を南北に貫流する阿武隈川の左岸段丘面に占地している。



(郡山)

発掘調査は郡山南拠点土地区画整理事業に伴い、一九九六年度より実施しており、二〇〇三年度までに七万㎡余りが終了している。この遺跡は、南北道路の両側に展開する鎌倉時代から室町時代にかけての町跡と「館A」「館B」と仮称する二カ所の平城によって構成され、町跡及びその南端東側の葉研堀に囲まれた「館A」と主郭・副郭が障子堀に囲まれた「館B」との間には、南西から北東方向に流れる埋没河川が確認されている。

出土遺物には土器や陶磁器のほか、木製品、石製品、金属製品、骨角製品、植物種子などがあるが、埋没河川南側の町跡及び「館A」では、一二世紀後半の輸入磁器や国産陶器が一定量確認されとともに、一三世紀から一四世紀までの輸入磁器や国産陶器が比較的多く見つかっている。また、北側の「館B」では、一三世紀の輸入磁器が少量見られるものの、町跡が縮小し始める一四世紀後半以降、一六世紀までの国産陶器や土師質土器も多く見つかっており、わずかだが一七世紀の陶器や土師質土器も確認されている。さらに埋没河川では、一三世紀から一五世紀までの陶磁器や土師質土器が見つかっており、これらとともに四八地点の木簡も出土している(第三二次調査)。なお、第一四次調査までの概要や出土木簡については、本誌二二・二三号に掲載しており、併せて参照願いたい。

一 第一五次調査

「館B」の主郭を囲む障子堀(一七号堀跡・内堀)のうち、南面を

二 第一六次調査

- (1) □□□大日如来 (198)×17×2 061 第一三六号
- (2) □□□□□ (140)×13×1 061 第一二七号
- (3) 「十方仏土中」 (106)×14×1 061 第一三八号
- (4) □□□□□ (82)×(9)×0.8 061 第一三九号

(1)は上端部を圭頭状とし、下端部を尖らせている。(2)~(4)も上端部は圭頭状だが、下端部は欠損している。いずれも笹塔婆だが、(1)の「大日如来」と(3)の「十方仏土中」が判読できるのみである。

三 第一七次調査

- (1) □□□符 (191)×13×1 019 第一四一号
- (2) 「南無×」 (175)×15×1 019 第一四二号
- (3) □□□ (196)×25×3 051 第一四三号
- (4) □□□ (190)×16×3 051 第一四四号
- (5) 「^(バ)大日如来」 (189)×13×1 061 第一四五号

- (6) 「^(バ)大日如来」 (123)×14×2 061 第一四六号

- (7) 「^(バ)大日如来」 (189)×13×1 061 第一四七号

- (8) 「^(バ)大日如来」 (156)×12×2 061 第一四八号

- (9) □□日如来 (184)×11×1 061 第一四九号

- (10) □□日如来 (177)×15×1 061 第一五〇号

- (11) □□日如□ (143)×17×1 061 第一五一号

- (12) 「如来」 (196)×17×2 061 第一五二号

- (13) □□日如× (118)×17×2 061 第一五三号

- (14) 「^(バ)日如来」 (218)×15×1 061 第一五四号

- (15) □□□ (235)×25×4 051 第一五五号

- (16) □□□ (245)×16×1.5 051 第一五六号

- (17) □□^(バ)大日如来 (56)×17×1 061 第一五七号

- (18) □□^(バ)来 (59)×15×1 061 第一五八号

(19)  (66)×26×2.5 061 第一五九号

(20)  (76)×13×2 061 第一六〇号

(21)  (103)×15×1 061 第一六一号

(3)~(5)(7)(8)(15)(16)は、完存もしくは下端部が若干欠損する資料で、これらはいずれも上端部を圭頭状とし、下端部を失らせている。また、上端部のみが遺存する資料はすべて圭頭状で、側面に切り込みなどがあるものはない。墨痕が判読できるものはほとんどが大日如来を表しており、金剛界大日如来を示す梵字(バン)の下に漢字で大日如来と記すものが特に多く認められる。形状・墨痕の内容から、これらの大半はいわゆる笹塔婆と考えられる。

なお、荒井猫田遺跡から出土した木簡及び木簡状木製品は、今回の資料を含めると計一九五点となる。このうち木簡は九二点で、判読できたものはその内容からいわゆる笹塔婆と呪符木簡とに大別され、数量的には前者が多数を占めている。

9 関係文献

郡山市教育委員会・(財)郡山市埋蔵文化財発掘調査事業団「郡山南掘点土地区画整理事業関連 荒井猫田遺跡(Ⅱ区)―第一五次発掘調査報告―」(二〇〇三年)

(高田 勝)